

## 会長挨拶

産学官建設技術交流会会長  
九州大学理事・副学長、九州大学名誉教授  
落合 英俊



今年度から建設技術交流会の会長を務めるようになりました落合です。どうぞよろしくお願い致します。ご承知の様に、この産学官建設技術交流会というのは、2008年の6月に第一回が開催されたと記憶しております。それから通算しますと今回が10回目ということになります。その間、歴代の企画部長が会長を務められ本日のこの場を築き上げて来られました。大変ありがとうございました。是非今後とも九地整の企画部並びに、福岡県県土整備部の皆様にはご指導頂ければと思います。

交流会というのは、お互い違うところが交じり合うということだと思いますが、ただ単に交じりあうだけではなく、そこから何か生み出すということ意識した集まりの会にしていってはどうかということ常々考えております。三つの組織がそれぞれ上手く噛み合うことが、人が集まる大きな要因になるのではないかと思います。産学官がそれぞれのところできちんと活動を成し得、三つの組織がうまく交流する場がこの場ではないかと認識しています。是非皆様方、そのことを意識して頂ければと思っています。また、それを更に深めるためにその後の意見交換会にも積極的にご参加頂き、考え方を述べ合うということが必要なので、どうぞ皆様方、今後ともこのような場に関心を持って頂き、我々が盛り上げていかなくてはいけないのだと思います。世の中、安全・安心ということに対して大変な関心が寄せられている時ではないかと思っております。このような時にこそ我々が前向きの姿勢で、力を合わせて社会に対して我々の分野でやっていくことを積極的に発信していくことが大変重要になってくるだろうと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

### 《プログラム概要》 H23.8.4

- 挨拶：九州大学理事・副学長 落合 英俊
- 講演1：「九州新幹線の役割とその効果等」  
JR九州（株）新幹線計画部長 松本喜代孝
- 講演2：「新幹線整備とその技術」  
（独）鉄道運輸機構九州新幹線建設局次長 高久 寿夫
- 会場を交えた意見交換会：  
コーディネーター：九州大学大学院教授 安福 規之  
(社)日本建設業連合会九州支部 池崎 正勝  
(社)建設コンサルタンツ協会九州支部 木寺佐和記  
福岡大学大学院教授 添田 政司  
九州地方整備局企画部 楠本 敦  
福岡県県土整備部 藤島 義久



### 【交流会の開催状況】

当日参加者数 125

### 【事務局より】

当交流会事務局は産学官より事務局員を選出した  
だき協働の事務局として運営しております。九州で  
の新技术の開発・活用・普及等へのご意見やご要望  
などがございましたら、お気軽に下記事務局までお  
寄せください。

### 【発行者】九州建設技術交流会

- 事務局
- 官＝九州地方整備局企画部機械施工管理官  
TEL：(092)471-6331 FAX：(092)476-3483
  - 学＝九州大学大学院工学研究院  
TEL：(092)802-3372 FAX：(092)302-3372
  - 産＝(社)九州建設技術管理協会  
TEL：(092)471-0189 FAX：(092)414-0767  
E-mail:kouryukai@kyugikyo.or.jp

# 九州新幹線全線開通に関する話題提供

「九州新幹線の役割とその効果等」  
JR九州（株）新幹線計画部長 松本喜代孝

松本氏は、平成16年にも当会場で博多駅地区商店街の皆様にご説明をいただき、話をされたそうです。今年3月に無事作業も終了し、安堵されたとのこと。今回はJR九州の鉄道事業の現状について話をいただきました。それによると、国鉄民営化以降企業努力とダイヤ改正等により、平成8年までは乗客数は増加したそうですが、その後は九州管内の道路網整備が進むにつれ落ち込み、割引切符によりがんばっているものの人口減少に伴う鉄道輸送量の減少は落ち続けているとのこと。新幹線鉄道は全国新幹線鉄道整備法で決められており、JR九州はあくまで営業主体であり、建設は鉄道運輸機構が主体となっています。全線開通により福岡～鹿児島間は1時間20分まで短縮され、日帰り圏内となっているそうです。今後は全線開業に合わせて博多駅ビルも施設を充実し、話題性がある特急列車を投入していきたいとのこと。

「新幹線整備とその技術」  
(独) 鉄道運輸機構九州新幹線建設局次長 高久 寿

高久氏は、「新幹線整備とその技術」というテーマで、新幹線整備についてと新幹線建設における技術面での工夫・配慮について話をいただきました。その中で、新幹線の定義や建設の流れ、建設決定に至るシステムや地方との関係、整備新幹線の進捗状況など、通常ではわからない情報が盛りだくさんでした。また、駅舎のデザインに関するコンセプトや地元意見の反映など各駅毎に違いがあり、かなり个性的であることもわかりました。九州新幹線は橋梁も多く、沿岸環境や景観に配慮したものが多くなっています。ケーブルの色までも検討されているそうです。技術面での検討では、久留米駅近くの松原跨線橋での狭隘な空間に架設する小型横梁回転架設工法の開発および採用、片押し施工区間が長い筑紫野高架橋での門型クレーン採用、大型移動支保工による場所打ちPC桁など高度な技術力を駆使した事例を紹介されました。最後に、希少生物へ配慮した橋梁の施工例と、環境型社会への貢献例を示して新幹線建設における環境への取り組みを話されました。



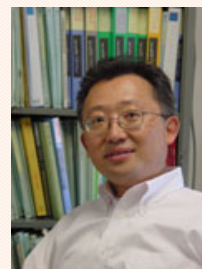
【話題提供の状況】



【意見交換会での登壇者の皆様】

## 意見交換

安福九州大学教授を座長とした意見交換会では、「交流会へのニーズ、意義と今後の開催方針」について、産学官それぞれを代表するパネリストのみならず会場からも施工会社や設計コンサルタント、大学関係者などから「従来型視点の充実に関するもの」「視点の拡大に関するもの」について積極的な発言がありました。九州大学 安福教授



事前にご意見を伺っていたこともあり、安福教授が示す産学官建設技術交流会交流活動領域イメージ図をもとに交流会の位置づけやあるべき姿、今後の方針について参考となるご意見をいただきました。また、九州地方整備局からは建設技術研究開発助成制度やNETISに関する紹介もされ、交流会を情報交換の場所としての位置づけを早速活用されました。最後に、安福教授が総括され、産学官が交流を重ね社会に対して積極的に情報発信していくことの必要性を示し、今後の会の機軸とすることを提案されました。